



Les Amis de L'Orgue de Tokorozawa MUSE

11月3日のリサイタルも終わり、オルガンスクールの生徒発表会を残すのみとなりました。私が皆様にオルガン通信をお届けするのも今回が最後。この11月末でホールオルガニストとしての任期を満了します。4年8ヶ月お世話になった所沢ミュージズともひとまずお別れです。

🍎改修直前！11月30日（金）18時15分開演オルガンスクール生徒発表会🍎

今年度は12月9日からの改修に伴い、オルガンスクールも7ヶ月間の短縮版で行ってきました。通常、翌年の3月に行っていた発表会をその年の11月に行う事になり、発表会に出演される生徒の皆さんはさぞかし肝を冷やしていらっしゃるのでは・・・！私は例年通り、初級の生徒10名を指導してきましたが、怒涛の週一回レッスンや、夏休み返上レッスンなどで、頻りに皆さんにお会いしておりました。「オルガンが好きになった」、「楽しいです！」と熱意溢れる言葉を下さる方々ばかりで、その好奇心や向上心に触れるたび、私自身もとても励まされています。期間は短くとも、生徒の皆さんとの距離がとても近くなったように感じました。



学生時代のレッスンの思い出・・・

所沢ミュージズで指導するようになって、自分が学生だった頃に先生から言われていた言葉を生徒の皆さんに掛けていることに気がきました。私は10年以上の長い学生時代を過ごし、たくさんの先生に師事してきました。ある作品の演奏解釈に対して、A先生は「早すぎる」、B先生は「遅すぎる」と、そんな対極の意見を述べる二人の先生から同時期に指導を受けた事や、自分の演奏スタイルとは真逆の音楽家に師事し、なかなか上手いはずなのに苦しい日々を送った事も。しかし、それら全ての経験がなんと幸運な事だったかと、いまでは心から感謝しています。音楽は勉強とは少し異なり、「これだけ練習したからこれだけ上手くなる」という法則はありません。でも、苦悩も、喜びも、全てがいつかは糧になる、それが音楽家として生きる醍醐味の一つかもしれない。素晴らしい作曲家達が残してくれた作品に生きる息吹を吹き込み、絶妙なさじ加減をめざして修練する日々は、この上なく贅沢な喜びだと信じています。



さてさて、脱線してしまいましたが、今年の生徒の皆さんは、この過酷な状況やスパルタ先生の指導にも負けず、熱心かつ着実に準備を重ねて下さっています。今回の発表会では、上級クラス5名と初級クラス10名の計15名が出演し、例年以上に勢いのある素晴らしい演奏を聴かせて下さるに違いありません！上級クラスの講師を務められている松居直美さんは J.S.バッハの不朽の名作「パッサカリア 八短調 BWV 582」を、私は学校のチャイムのメロディーでもお馴染み、ヴィエルヌの「ウェストミンスターの鐘」を演奏しますので、講師演奏もお楽しみに。改修前のオルガン事業を締めくくる発表会にぜひお越し下さい！

🍎任期满了のご挨拶🍎

冒頭にも少し書きましたように、この11月末をもって所沢ミュージズのホールオルガニストを卒業します。留学から帰国してすぐに、このような素晴らしい場で活躍の機会を沢山頂き、幸運のうちに貴重な経験をさせて頂きました。ホールオルガニストとしての仕事、オルガンのメンテナンスのやり方、レッスンなど真っ白からのスタートでしたが、所沢ミュージズのアドバイザーでおられる松居直美さんにつづつ導いて頂き、ホールのスタッフの方々を支えて頂きながら、ここまで歩んでこられたのだと思います。オルガンスクールで出会った生徒皆さんの顔が浮かびます。そして何より、公演に足を運んで下さった聴衆の皆様の温かい声援は心に強く響き、さらに良い内容の公演になる様にと進む原動力となりました。全ての皆様に心より感謝申し上げます。2020年の改修後も、所沢ミュージズの宝物・パイプオルガンを愛して頂けるよう、心から願っています。